

第667回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2024年10月度 ——

◇ 議題

<テレビ番組>

「高校生のじかん」

放送日時：2024年8月3日(土) 13時00分～

◇ その他

KBC テレビ 2024年上期の番組種別の公表報告

2024年10月21日(月)開催

九州朝日放送株式会社

第667回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2024年10月21日(月) 15時25分～16時40分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社7階A会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 7名

委員長	上野	恵梨奈
副委員長	山根	久資
委員	副田	智幸
委員	サーズ	恵美子
委員	小柳	美佳
委員	泗水	康信
委員	林田	真心子

欠席委員数 1名

委員	森	慎二
----	---	----

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	森	君夫
取締役 報道制作局長	大迫	順平
執行役員 総合編成局長	柴田	高宏
報道制作局 コンテンツ戦略部長	山田	利宣
KBC M○○○V「高校生のじかん」プロデューサー	石橋	基弘
番組審議会事務局長兼広報室長	吉岡	実
番組審議会事務局(広報室)	松永	俊郎

4. 議題

- (1) テレビ番組「高校生のじかん」(放送日時: 2024年8月3日(土)13時00分～)
- (2) KBC テレビ 2024年度上期の番組種別の公表報告
- (3) 10月・11月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
- (4) 9月 視聴者・聴取者応答状況の報告
- (5) その他

5. 議事の概要

委員の意見(概要)

委員からは、

- 高校生たちの歌にかける思いや、歌が好きという気持ちが伝わった。
- 高校生を主体、主役とした、寄り添った印象の番組だった。見る側も出演する側も楽しめた。
- 人や地域に焦点を当てた KBCらしい番組だった。
- 参加した高校生の背景や思いも紹介されていたので、より歌に入り込むことができた。
- 歌い切った後の高校生の表情が、それぞれのキャラクターを上手に伝えていた。
- プロの審査員に講評をもらえる経験は、良い機会になったのではないか。
- 友だちと一緒にステージに出ていることで、高校生らしさや友情、青春を感じた。
- 心配そうに見守る家族を映した場面は温かい雰囲気が伝わった。
- MCのとらんじっとさんは、適度な掛け合いでうまく雰囲気を盛り上げていた。
- 高校生や若者に機会を提供するテレビ局のあり方として素晴らしい番組だと思った。
- 若年層はテレビ離れが進んでいる。本作はそれを食い止めるミッションを帯びている。
- SNSを活用し参加者を選考する仕掛けに、若い世代とテレビとをつなぐ可能性を感じた。
- 高校生が制作した動画を TikTok やテレビで紹介すれば、放送局との距離が縮まるのではないか。

などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- 肝心の歌があまり印象に残らなかった。選考方法や選考基準が気になった。
- スーパー等で表情が隠れたり、最後まで歌が聞けない場面は残念に感じた。
- 参加者一人ひとりの紹介やエピソードがもう少しあってもよかった。
- MCの「高校生の歌で泣きかけるとは」というコメントは失礼だと感じた。
- ステージが暗かった。観客を入れて盛り上げた方が見栄えがしたのではないか。
- 「リアルジャッジ」と謳うには、審査員の辛辣なコメントが少ないように感じた。
- 他の審査員の判断が別の審査員に影響しないように少し配慮してほしかった。

- 前回の「歌うま選手権」グランプリの高校生には番組エンディング曲を担当する機会が与えられたが、本作でグランプリになった高校生には何かの機会が与えられたのか分からなかった。
- 視聴率はどうだったのか。番組のターゲットと制作意図を教えてください。
などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、制作担当者からは、

- 「高校生のじかん」は当初「ふるさと Wish」のミニ枠だった。学校関係者や高校生から好評を得て番組化した。地域貢献の意味合いもある。
- 高校生がリアルタイムでテレビに接触する機会は減っているが、公式 TikTok は高い支持を得ている。次の展開として、テレビを見てもらえるようにしたいと思っている。
- 「歌うま選手権」は今年度から始めた新企画。TikTok で先行して実施していた。再生数が伸びるようになったので、TikTok のフォロワーをテレビに呼び込もうと番組化した。
- 今回は、高校生たちに一番得意な曲を自由に歌ってもらった。万人受けするような課題曲を歌ってもらったわけではないので、歌そのものがあまり印象に残らなかったかもしれない。
- プロを目指す高校生が多かったので、審査員にも本気でジャッジしてもらった。プロの目の前で歌う緊張感を伝えたかったが、その意図が伝わっていなかったのであれば改善したい。
- TikTok には 60 数名の動画が寄せられ、プロの審査員に歌のレベルで選考してもらった。今回の 6 人が選ばれたことなどはもう少し丁寧な説明が必要だった。
- テロップやワイプを用いた映像づくりについて、多い方がいいのか、少ない方がいいのか常に悩む。今回は番組を途中から見た人にも内容が理解できるように意図的に多めにした。
- 「リアルジャッジカラオケ大会」として番組化は初めてだったので、放送時間の中で何人くらい紹介できるのか分からなかった。背景取材もしていたが、均等に紹介しようとしてバランスを欠いた場面もあったかもしれない。
- 会場の雰囲気を利用して撮影したことが「ステージが暗い」という印象を与えてしまった。
- 審査方法について、他の審査員の判断が影響する可能性はあったかもしれない。今後の番組をリニューアルする際の検討材料にしたい。
- 「リアルジャッジカラオケ大会」などからつながる「歌うま選手権」の本当のクライマックスは 3 月のフェス。フェスでグランプリを受賞した高校生には（前回同様）番組エンディング曲を歌っていただく予定。

などの説明をしました。